

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2023 Jul.

第121号

発掘調査
整理遺跡
紹介

南魚沼市金屋遺跡、2023年度の発掘調査・整理遺跡・報告書刊行遺跡
企画展案内ヒスイガイドブック、国・県指定等文化財一斉公開の紹介



2023年度 企画展1
発掘された名前



2023年度 本発掘調査遺跡・ 整理遺跡の紹介

本発掘調査は村上市上野遺跡、南魚沼市金屋遺跡、六日町藤塚遺跡・余川中道遺跡、上越市下割遺跡の5遺跡、整理作業は柏崎市丘江遺跡の1遺跡を実施しています。

かみの
上野遺跡 (村上市猿沢・松原)



縄文時代後期前葉（約4,000年前）の大規模な集落跡です。多数の建物が何度も建て替えられており、継続的に暮らした様子が分かります。

かなや
金屋遺跡 (南魚沼市余川)



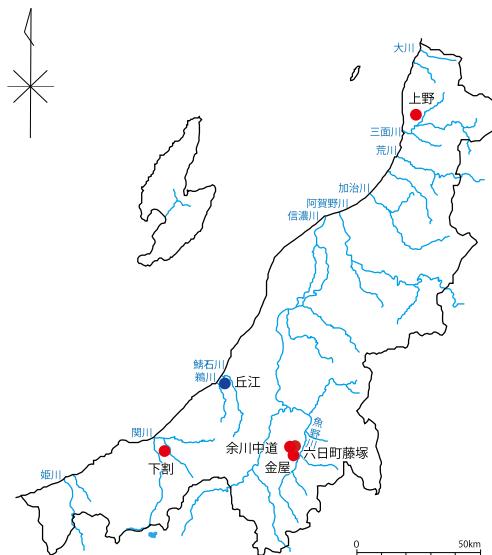
平安時代の集落跡を中心に調査しています。遺物内容から当時の有力者が関わった遺跡と考えられ、また関東との関係性も注目されています。

しもわり
下割遺跡 (上越市米岡・北田中)



中世・古代・古墳時代・縄文時代の4層の遺跡が重なっています。現在、中世と古代の遺跡を調査しており、珠洲焼や須恵器などが出土しています。

遺跡位置図



むいかまちふじつか
六日町藤塚遺跡 (南魚沼市余川)



古墳時代後期～平安時代の遺跡で、昨年度の調査では古墳時代後期の子持勾玉が発見され話題になりました。写真は平安時代の溝を調査している様子です。

おかえ
丘江遺跡 (柏崎市田塚・茨目)



中世の集落と水田、弥生時代の流路が検出され、土器や木製品などが出土しました。今年度は報告書作成作業に取り組んでいます。



2023年度 整理作業 から①

報告書刊行遺跡の紹介

今年度は2022年度に編集業務を行った4冊の発掘調査報告書を刊行します（一覧表参照）。

第294・297集は阿賀野バイパス関係報告書です。この2冊の刊行をもって当バイパス関係で調査した遺跡の報告書作成業務が完了します。当バイパスでは、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する縄文時代から中世の遺跡を複数調査しました。とくに古代から中世は掘立柱建物や井戸からなる居住域と田畑などの生産域を検出したほか、道も確認され、当時の集落の在り方を明らかにすることができました。

第295集宮林B遺跡とササラ西遺跡では縄文時代の遺物が出土しました。ササラ西遺跡では縄文時代後期から晩期中葉を主体とする土坑や土器集検出、当該期の土器様相及び磨製石斧製作の一端を明らかにすることができました。また、中世の水田区画や杭列も検出しました。

第296集金屋遺跡では9世紀末から10世紀後半と、9世紀初頭から後半の遺構面を確認しました。前者では柱穴列で区画した掘立柱建物群、後者では掘立柱建物と竪穴建物を検出しました。竪穴建物の構造には関東地方の影響がみられ、出土土器は北関東系、北陸系、在地系があります。集落内から武具や馬具が出土したことから武器を携え、騎乗する有力者の存在が想起されます。

（土橋由理子）



新町遺跡井戸側（西から）



ササラ西遺跡全景（南東から）



金屋遺跡全景（西から）

番号	書 名（遺跡名）	副 書 名	巻次	遺跡所在地
294	山口遺跡Ⅲ（第4次調査）・山口野中遺跡Ⅳ（第4・5次調査）・境塚遺跡Ⅴ 第5次調査・新町遺跡Ⅱ（第2次調査）・石船戸東遺跡Ⅱ（第3次調査）	一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書	18	阿賀野市
295	宮林B遺跡・ササラ西遺跡	一般国道17号 湯沢待避所・川口待避所関係発掘調査報告書	—	湯沢町・長岡市
296	金屋遺跡Ⅳ（第4・5次調査）	一般国道253号八箇峠道路関係発掘調査報告書	3	南魚沼市
297	石船戸東遺跡Ⅲ（第4次調査）・蕪木遺跡Ⅱ（第3次調査）・山口野中遺跡Ⅴ（第6次調査）	一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書	19	阿賀野市



2022年度
整理報告
遺跡の紹介

金屋遺跡の平安時代竪穴建物SI1470と SI1470出土土器

所在地：南魚沼市余川字金屋道上

金屋遺跡は、魚沼丘陵東麓にある蟻子山の東裾に広がる大きな遺跡です。庄之又川によって形成された標高約194mの扇状地に立地します。

発掘調査は1982年に関越自動車道建設に伴って初めて行われ、古墳時代と平安時代に集落が営まれていたことがわかりました。近年は、国道253号八箇峠道路建設に伴い発掘調査を実施しています。

竪穴建物SI1470（写真上段）は2021年の発掘調査で発見されたもので、長軸4.52m、短軸3.72mを測り、面積は16.8㎡です。建物内から出土した土器（写真下段）は、9世紀（平安時代）のもので建物の年代もこのころと考えられます。南壁中央付近にカマドがあり、カマドは竪穴建物南壁よりもさらに南側に張り出します（写真中段）。このようなカマドの形状は関東地方に多く、越後ではあまり見られません。

出土土器にはご飯やおかずを盛るための須恵器杯蓋・有台杯、土師器無台杯や煮炊きをするための土師器甕などがあります。煮炊きをするための甕には、外面にヘラケズリを行い器面を薄く仕上げた北関東地方に多く見られるもの（北関東系）、外面にヘラケズリを行う点は北関東系と同じですが、北関東系ほど器壁が薄い魚沼地方特有のもの（在地系）、ロクロを使って成形した、越後を含めた北陸地方に広く確認できるもの（北陸系）の3種類が確認できます。

写真の北関東系の甕は胎土中に結晶片岩と呼ばれる岩石を含んでいることから、埼玉県・東京都を流れる荒川の中流域で生産された可能性が高いことが、岩石学的な分析からわかりました。北陸系・在地系の甕には魚野川流域に多く見られる花崗岩の碎片や石英・長石・雲母などの花崗岩起源の岩石が含まれており、遺跡周辺で製作された可能性が高いと考えています。

荒川中流域で生産された甕などの生活用具を携え関東地方から移住した人が、慣れ親しんだ形の竪穴建物を作り、地元の人々と協力しながらこの

地で暮らしたのでしょうか。

写真の遺物は9月末頃まで新潟県埋蔵文化財センターの展示室でご覧になることができます。遺物を観察しながら、越後魚沼地方で関東風の建物が建てられ、そこで関東産と地元産の土器が使われた背景について、考えを巡らせてみてはいかがでしょうか。（春日真実）



竪穴建物SI1470（北西から）



SI1470カマド（北西から）



SI1470出土土器

（最前列右から二番目の須恵器の口径が約11cm）



埋文 インフォ メーション

2023年度企画展1 発掘された名前

4月21日（金）～12月17日（日）まで開催
開催中複数回の展示替があります。

4月21日から始まった企画展1も早3か月がたちました。遺跡から発掘された文字資料のうち、「名前」に焦点を当てた企画展となっています。7月1日からは五泉市新保遺跡の古代の墨書土器「屎女」が展示に加わりました。

6月16日まで展示していた新潟市緒立C遺跡の人面墨書土器は、今は特別収蔵庫で休憩中です。9月1日～28日まで「大人向け体験会」第2回人面墨書土器の顔を書くお手本としてまたお目見えします。4月に作った土器にお好みの顔を書きます。その後に参加した皆さんでセンターの溝を川に見立て撮影会を行う予定です。撮影会后、人面墨書土器はしばらくセンターロビーで疫病が入らないようににらみを利かせてもらいます（ミニ展示会を開催します）。

新潟市の釈迦堂遺跡や沖ノ羽遺跡等の墨書土器の展示は9月21日まで、的場遺跡の多様な男女名の墨書土器、駒首潟遺跡の「大納言阿倍大夫」木簡の展示は9月22日～12月17日までとなります。

長岡市の八幡林遺跡の多くの郡関係施設の文字資料の展示は9月7日までです。そして10月20日から下ノ西遺跡の重要木簡群と長岡城跡の近世木



「人面墨書土器を作る」土器つくりの様子

簡の展示が始まります。長岡藩の藩士の名前が書かれた興味深い木簡です。

佐渡市佐渡国分寺跡出土の「三国真人」刻書瓦の展示も10月末までです。役人風の戯画が書かれた大変貴重な瓦で、海を渡って当センターにお出ましになっています。佐渡市の城ノ腰遺跡、若宮遺跡、藤塚貝塚出土墨書土器もお見逃しなく！

企画展関連の講演会もあと5回開催予定です。定員会場80名（申込不要）、オンライン50名限定（要申込）となっています。詳細はホームページでご確認ください。（佐藤友子）

第2回「まいぶんまつり」

10月9日（月・祝）

6月4日に開催した第1回「まいぶんまつり」に続き、今年は10月9日に第2回を開催します。第1回は「勾玉づくり」に没頭しましたが、第2回はさまざまな楽しいイベントを計画しています。お楽しみに！

同日センターがある花と遺跡のふるさと公園内では「花と遺跡の秋まつり」を開催中です。

レンガ道の植物園側に新しく設置したセンターキャラクター「まいぶんちゃん」をたどるとあっという間にセンターに到着します。（佐藤友子）



「勾玉づくり」の様子



埋文 インフォ メーション

ヒスイガイドブックの紹介 国・県指定等文化財一斉公開紹介

ヒスイガイドブックの紹介

2022年11月4日に、ヒスイが「県の石」に指定されたことを記念し、県では「ヒスイまるごとガイドブック」を制作しました。

ガイドブックでは、そもそもヒスイとは何なのか？ということから、ヒスイ利用の歴史や、魏志倭人伝とヒスイとの関わりなど、ヒスイをめぐる様々な話題を紹介しています。

また、市町村から出土し



ヒスイまるごと
ガイドブック表紙

たヒスイを写真付きで掲載し、その展示施設を紹介しています。ガイドブックの中から、あなたの目を惹くお気に入りのヒスイが見つかるかもしれません。「ヒスイまるごとガイドブック」を片手に、ヒスイに会いに出掛けてみてはいかがでしょうか。

県内の教育施設や文化施設、観光案内所などに配布しました。入手をご希望の場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

◆ お問い合わせ

新潟県文化課埋蔵文化財係

TEL：025-280-5620／FAX：025-280-5764

Mail：ngt150030@pref.niigata.lg.jp

(新潟県文化課 松野沙依)

「にいがた秋の文化財一斉公開」 を10月に開催します！

文化財は、我が国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民の財産です。神社やお寺などの建造物、仏像、絵画、伝統芸能やお祭り、工芸技術のほか、遺跡や歴史的な集落・町並みなども文化財に含まれます。

新潟県内には、国や県に指定、選定、登録されている文化財が1,185件（2023年4月1日現在）もあることを皆様はご存知でしょうか。県では、県民の皆様から身近な文化財に親しんでいただくため、文化財所有者や市町村の皆様等と連携して、10月に国・県指定等文化財を一斉に公開する「にいがた秋の文化財一斉公開」を開催します。通常

公開していない文化財の特別公開もありますので、この機会にぜひ文化財めぐりにお出かけください。

◆ 開催期間：2023年10月1日(日)～31日(火)

※詳細は、「新潟県文化祭」ホームページをご覧ください (<https://n-story.jp/bunkasai/>)。

(新潟県文化課 三ツ井朋子)



重要文化財新潟県議会旧議事堂（新潟市）



埋文にいがた 第121号

2023年7月28日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL：(0250)25-3981 FAX：(0250)25-3986

E-mail：niigata@maibun.net URL：https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。
上の URL からご確認ください。